

TS-M2M-0016v3.0.2

セキュア領域の抽象化

Secure Environment Abstraction

アブストラクト：

セキュリティ仕様書 (TS-0003) で定義されている様々なセキュア領域の実装に対して、抽象化されたインターフェースや構造について記述する。

(セキュア領域：機密データの保管や、暗号化や復号などのセキュリティ機能を安全に実施するための高度なセキュリティを確保した領域)

目次：

1 章 所掌範囲 (目的)

2 章 引用文献

3 章 定義、略語と頭字語

4 章 表記法

5 章 セキュア領域の抽象的アーキテクチャ

oneM2M エンティティ (CSE や AE) とセキュア領域との抽象的なアーキテクチャについて記述する。

6 章 セキュア領域

セキュア領域の特徴や、セキュア領域の種類とセキュリティレベルの説明を記述する。

7 章 論理的抽象化—Mcs 参照ポイント

oneM2M の CSE とセキュア領域 (SE) の参照ポイントを Mcs と定義し、セキュア領域を用いた以下の機能を実施するための操作やリソースを記述する。

- 機密データの保管
- 暗号機能
- セキュア通信の確立
- 認証と識別

8 章 物理インターフェース

本リリースでは Mcs 参照点と特定のセキュア領域で使用される物理 IF とのバインディングについては規定しない

9 章 Mcs 参照ポイントにおけるリソースタイプの定義

Mcs 参照ポイントを通じて操作するリソースのプロトコル仕様について記述する。

10 章 Mcs 参照ポイントにおける省略名

Mcs 参照ポイントを通じて操作するリソースや、そのアトリビュートの省略名について記述する。

Summary:

The present document specifies mechanisms and interfaces to abstract from different technical implementations of a secure environment as defined in oneM2M TS-0003 [1].